

# 公共交通のあり方について

都市環境福祉常任委員会重点テーマ所管事務調査報告  
(平成30年9月21日)

# ◆所管事務調査の実施について

## 1. 調査事件

公共交通のあり方について

## 2. 調査方法

議員間審議、市長等からの説明、市長等への質疑  
及び意見聴取並びに視察等

## 3. 調査期間

平成29年9月26日から平成30年9月21日まで

## ◆調査目的

平成29年7月14日付けで、京阪バスから本市に対して、一般路線バスの利用者減少や深刻な乗務員不足での路線維持の困難な状況などによる交野市域における路線見直し計画（予定）についての申し入れがあった。

特に、廃止の申し入れがあった南星台関連系統バス路線は、本市南部地域の広範な住民の生活に欠かせない貴重な公共交通として長年利用されており、当該路線が廃止されれば、利用圏内に居住する住民の移動手段はきわめて制約され、地域住民の日常生活に多大な困難が生じるとともに、今後の当該地域のまちづくりに大きな影響を及ぼすものである。

市では、学識経験者、関係団体及び市民で組織する検討委員会を立ち上げ、今後の市内の公共交通等（鉄道交通を除く）のあり方について、検討することとなっているが、議会（委員会）としても看過できる問題でないため、都市環境福祉常任委員会の所管事務調査（重点テーマ）として取り組むこととした。

## ・平成29年第3回議会定例会9月20日 可 決

### 南星台関連系統バス路線の継続に係る要望書

平成29年7月14日付で、本市に対し廃止の申入れがありました南星台関連系統バス路線は、本市南部地域の広範な住民の生活に欠かせない貴重な公共交通として長年利用されています。

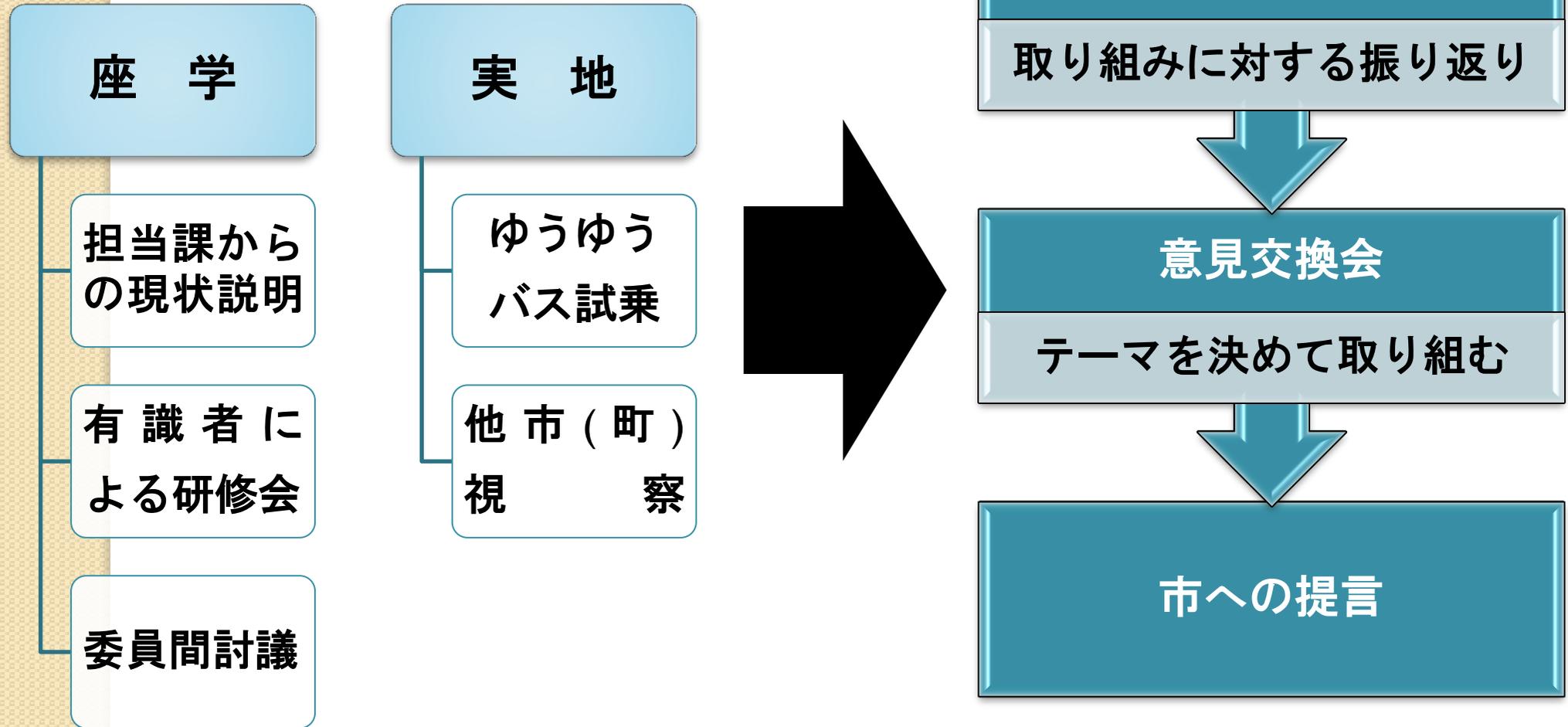
当該路線が廃止されれば、利用圏内に居住する住民の移動手段はきわめて制約され、地域住民の日常生活に多大な困難が生じるとともに、今後の当該地域のまちづくりに大きな影響を及ぼすものであります。

このため、交野市議会は京阪バス株式会社に対して、本市の事情をご斟酌の上、当該路線を継続されることを強く要望します。

平成29年9月20日

交野市議会議長

# ◆委員会の取り組み



# ◆調査状況- 1 - 1

## 1. 委員会（協議会）

日付	内容等	備考
平成29年9月11日	重点テーマの希望締切・決定予定日を協議	協議会
平成29年9月26日	重点テーマを選定	協議会
平成29年9月26日	重点テーマを決定	常任委員会
平成29年10月31日	重点テーマに係る所管事務調査の日程調整	常任委員会
平成29年11月7日	担当課からの現状説明、視察先希望締切の設定	常任委員会
平成29年12月15日	視察日程調整及びゆうゆうバス試乗を協議	常任委員会
平成29年12月25日	ゆうゆうバス試乗の説明、視察先及び学識 経験者による研修会の決定	常任委員会
平成30年2月28日	委員間審議（取り組みの振り返り等）	常任委員会

# ◆調査状況- 1 - 2

## 1. 委員会（協議会）

日付	内容等	備考
平成30年3月19日	委員間審議（取り組みの振り返り等）	常任委員会
平成30年3月27日	委員間審議（取り組みの振り返り等）	常任委員会
平成30年5月9日	委員間審議（意見交換会に向けた確認）	常任委員会
平成30年5月31日	委員間審議（利用促進策（案）の議論）	常任委員会
平成30年6月6日	意見交換会の日程調整	常任委員会
平成30年6月26日	意見交換会の運営及び報告書作成方法を協議	常任委員会
平成30年9月12日	調査報告書の取りまとめ	常任委員会

# ◆調査状況- 2

## 2. 視察

日付	行先
平成30年2月13日	福岡県嘉麻市
平成30年2月14日	福岡県須恵町

## 3. 意見交換会

日付	内容等
平成30年7月20日	交野市地域公共交通検討委員会委員との意見交換を実施

## 4. その他

日付	内容等
平成30年1月11日 ～ 平成30年2月9日	ゆうゆうバス試乗
平成30年2月1日	学識経験者による議員研修会

※平成29年8月24日、「京阪バスの交野市域における路線見直し計画等について」  
平成29年11月2日、「京阪バスの交野市域路線の再編計画について」  
それぞれ、理事者より議会へ報告あり。

# ◆担当課からの現状説明

日 時：平成29年11月7日 10時から

場 所：市役所本庁3階 第一委員会室

担当課：都市計画部、福祉部

内 容：交野市の公共交通の現状、ゆうゆうバスの現状、今後の公共交通のあり方の検討について次のとおり、担当課から現状説明を受けた。

- ・ バス路線図に基づき、ルート等について
- ・ 鉄道交通の乗客数について
- ・ 星田交通(タクシー)の運行台数等について
- ・ 京阪バスに対する今までの補助金について
- ・ 京阪バスの申し入れに伴う、変更予定後のバス路線図に基づき、ルート等について
- ・ ゆうゆうバスの運行の変遷について
- ・ ゆうゆうバス以外の外出支援について
- ・ 地域公共交通検討委員会での検討内容と委員会開催スケジュールについて



# ◆学識経験者による議員研修会

日 時：平成30年2月1日 10時から

場 所：市役所本庁3階 第一委員会室

講 師：大阪大学 助教 猪井 博登 氏

内 容：公共交通の基礎知識向上のため大阪大学猪井助教を講師に招き、全議員を対象とした、議員研修会を実施した。大きく分けて、次のとおり、説明を受けた。

- ・公共交通の経営状況について
- ・公共交通の法律とその変遷について
- ・公共交通に対する補助制度について
- ・公共交通の根源的な問題について
- ・公共交通における計画や戦略の必要性について
- ・公共交通計画を立てる上での注意点について
- ・住民が利用してくれる公共交通について
- ・講師自身がその地域の公共交通を考える際の事項について
- ・先進事例（箕面市）の取り組みについて



# ◆先進市視察

先進市の取り組みを考察するため、常任委員会として先進市視察を実施した。

●まず、人口、面積、公共交通の状況に関する視察先と交野市の比較

日付	平成30年2月13日	平成30年2月14日	交野市情報
視察先	福岡県嘉麻市	福岡県須恵町	
人口	39,378人	27,834人	77,932人
面積	135.8 k m <sup>2</sup>	16.31 k m <sup>2</sup>	25.55 k m <sup>2</sup>
公共交通	鉄道、民間バス、 コミュニティバス、 福祉バス、タクシー	鉄道、民間バス、 コミュニティバス、 タクシー	鉄道、民間バス、 福祉バス、タクシー

※人口については、平成29年6月1日現在を記載

# ◆先進市視察-嘉麻市

日 時：平成30年2月13日 14時から

場 所：福岡県嘉麻市庁舎内

担当課：地域活性推進課

内 容：担当課職員より嘉麻市の公共交通の現状、計画策定の背景と目的等について説明を受けた。

- ・市内には、平成18年に1市3町で合併したが、従前の交通形態が維持されていた。1市1町は有償、2町は無償であったため、地区によって不平等の状態が続いている。  
⇒現在、新庁舎が平成32年に供用が開始されることから、住民のニーズに即した各公共交通機関との連携による、持続可能で利用しやすい安全な公共交通を再構築する必要があり、計画を策定することとなった。
- ・交野市同様に、民間バス、市バス及び福祉バス共に年々利用者が減少している。また、民間バスより1路線の廃止申し入れがあり。
- ・平成29年度からは市内在住の高校生等を対象に、高校等通学補助金を創設。



# ◆先進市視察-須恵町

日 時：平成30年2月14日 10時から

場 所：福岡県須恵町庁舎内

担当課：まちづくり課

内 容：担当課職員より須恵町のコミュニティバス導入の経緯や計画策定等について説明を受けた。

- ・ 町内には、昭和46年より福祉バスが供用開始した。その後、住民ニーズも多様化し、様々な意見が寄せられ、平成18年度からコミュニティバス検討委員会を発足し、導入を検討。平成24年4月から本格運行がスタートした。  
⇒検討員会発足後、アンケート調査を実施、結果では、有料化されても「高齢化社会に備え、公共交通の必要がある」意見があった。また、様々な意見集約を行うため、法に基づく協議会を設置し、計画の中身議論。やはり、無料から有料へ移行することから、民間バスから意見が多くあった。最終的には、競合するのではなく、民間バスとのみす分けをすれば、共存できるのではないかと結論に至った。なお、65歳以上は無料のままとしている。
- ・ コミュニティバスの運行課題として、「収入確保」と「利用者確保」がある。収入率が悪く、ダイヤに対する満足も年々悪くなっている。
- ・ 新しい取り組みとして、ネーミングライツ、高齢者無料化の再検討、バスを中心とした生活プログラムの構築等を検討している。



# ◆意見交換会にむけて

先進市視察を終え、これまでの取り組みを振り返り、団体との意見交換会を実施するにあたり、以下のとおり委員会を開催した。

日付	内容等
平成30年2月28日	委員間審議（取り組みの振り返り等）
平成30年3月19日	委員間審議（取り組みの振り返り等）
平成30年3月27日	委員間審議（取り組みの振り返り等）
平成30年5月9日	委員間審議（意見交換会に向けた確認）
平成30年5月31日	委員間審議（利用促進策（案）の議論）
平成30年6月6日	意見交換会の日程調整
平成30年6月26日	意見交換会の運営及び報告書作成方法を協議

※次頁については、意見交換に向けた委員会での取り組み内容を掲載しています。

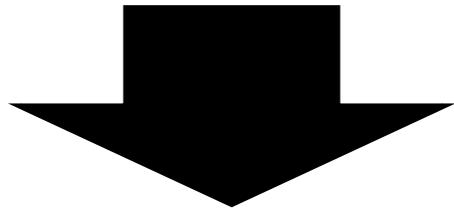
# ◆現状と将来の課題と対応

【テーマ（目的）】

市民の移動手段の確保を図り、公共交通体系を維持する。

## 現 状 （ 短 期 ）

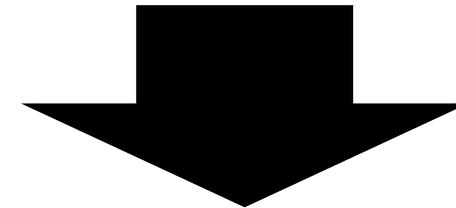
・京阪バスの路線撤退の申し出を受け、地域住民の移動手段が制約されることから、公共交通の新たな利用促進、外出支援策等を図り、公共交通体系を維持する。



- ・公共交通の利用促進
- ・財源（収入）の確保
- ・山地地域のフォロー

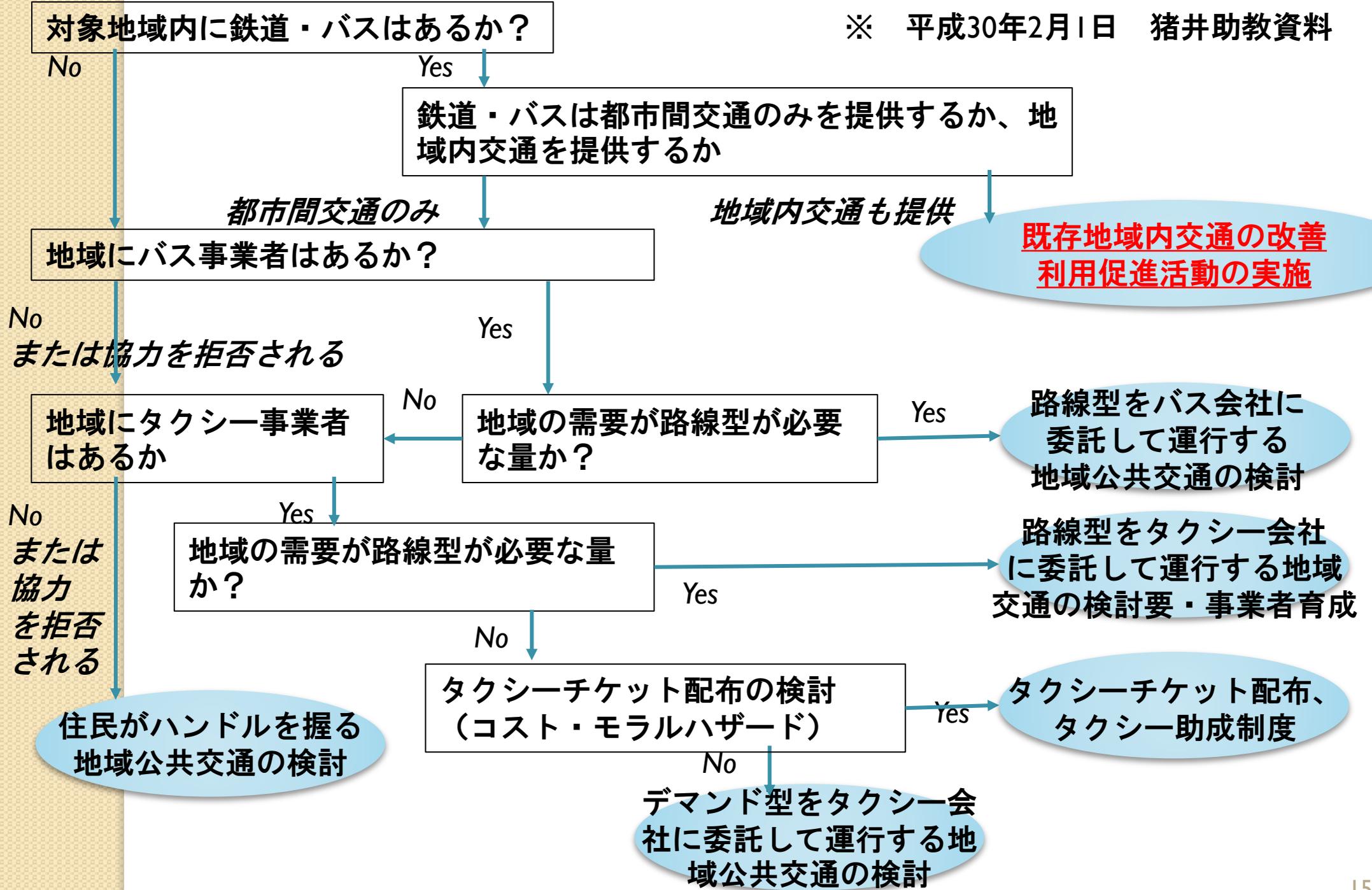
## 将 来 （ 中 長 期 ）

・（人口減少、超高齢化等の）将来予測される社会変動に対して、あらゆる市民の移動手段を守る公共交通のあり方を構築していく。



- ・ゆうゆうバスの今後のあり方
- ・市域全体の公共交通の図面

⇒ そのためになにができるのか？



# ◆課題と対応-短期

【テーマ（目的）】

市民の移動手段の確保を図り、公共交通体系を維持する。

短期	概要	NO	具体的な取り組み	実施主体	議会の対応 (可能性)
<p>京阪バスの路線撤退の申し出を受け、地域住民の移動手段が制約されることから、公共交通の新たな利用促進、外出支援策等を図り、公共交通体系を維持する。</p>	利用促進策	1	ホームページ・広報の活用	行政・事業者	提言
		2	パンフレット・マップの作成	行政・事業者	提言
		3	イベントの実施	行政・事業者	提言
		4	割引運賃・企画切符の導入	行政・事業者	提言
		5	ICカードの導入	行政・事業者	提言 (P-20)
		6	バスロケーションシステムの導入	行政・事業者	提言 (P-21)
		7	ポイントサービスの導入	行政・事業者	提言 (P-22)
		8	免許返納者への優遇	行政・団体	提言
		9	待合環境の改善（時刻表、清掃）	行政・事業者・地域	提言
		10	ノンステップバスなどの導入	行政・事業者	提言
	財源の確保 ゆうゆうバス	11	広告収入（ラッピング）	行政	提言
		12	吊りビラの促進	行政	提言
		13	バス停名の変更	行政	提言
	山間地域へのフォロー	14	乗り方サポート	行政・事業者	提言
		15	教育機関へのアプローチ	行政・事業者	提言
		16	地域コミュの形成の取り組み	行政・事業者・地域	提言

# ◆課題と対応-長期

【テーマ（目的）】

市民の移動手段の確保を図り、公共交通体系を維持する。

長期	概要	NO	具体的な取り組み	実施主体	議会の対応 (可能性)
人口減少・超高齢化等の将来予測される社会変動に対して、あらゆる市民の移動手段を守る公共交通のあり方を構築していく。	ゆうゆうバスの今後 のあり方	17	京阪バスとの路線重複への対応	行政・事業者・地域	提言
		18	路線・時間帯の見直し	行政・事業者・地域	提言
		19	運行主体の見直し	行政・事業者	提言
		21	運転サービスの見直し	行政・事業者	提言
	市域全体の公共交通の図面	22	公共交通会議の実施	行政・事業者・地域	条例化
		23	広域連携の模索	行政・事業者	意見書・条例化
		24	空白区の解消	行政・事業者・地域	提言

# ◆課題と対応に対する検討-1

平成30年5月31日の委員会では、課題と対応-主に短期の具体的な取り組みについて、担当課に確認を実施した。

概要	NO	具体的な取り組み	確認内容（回答）
利用促進策	1	ホームページ・広報の活用	広報担当のルールによると、1事業者に対することであることから、活用出来ていない。しかし、今後広報担当と調整し、検討も含め考える。
	2	パンフレット・マップの作成	作成予定であったが、平成29年の京阪バスからの廃止の申し入れを受け、路線変更が生じるため、延期している。
	3	イベントの実施	京阪バスと協議中であったが、平成29年の京阪バスからの廃止の申し入れ等を受け、立ち消えとなっている。
	4	割引運賃・企画切符の導入	京阪バスにて1日650円で乗り放題を実施している。
	5	ICカードの導入	既に市は京阪バスへの補助金として実施している。
	6	バスロケーションシステムの導入	
	7	ポイントサービスの導入	
	8	免許返納者への優遇	府の事業であり、公的援助は無く、企業努力の部分がある。交野市のサポート企業は0件。
	9	待合環境の改善（時刻表、清掃）	雨よけ等を市が一部設置したが、道路上に構造物を設置することは道路管理者としても問題があると考えている。
	10	ノンステップバスなどの導入	京阪バスにて実施している。

# ◆課題と対応に対する検討-2

平成30年5月31日の委員会では、課題と対応-主に短期の具体的な取り組みについて、担当課に確認を実施した。

概要	NO	具体的な取り組み	確認内容（回答）
ゆ 財 う 源 ゆ の う 確 バ 保 ス	11	広告収入（ラッピング）	車体がリースであるため、原状復帰出来るものについては、対応可能である。
	12	吊りビラの促進	
	13	バス停名の変更	対応可能である。
山 間 地 域 へ の フ ォ ロ	14	乗り方サポート	イベントの実施と同様に考えている。 検討していきたい。
	15	教育機関へのアプローチ	
	16	地域コミュの形成の取り組み	京阪バスからの廃止の申し入れを受け、地域で集まっているとは聞き及んでいる。地域から依頼があれば協力を検討していきたいと考える。

※当日は、主に短期の具体的な取り組みについての確認を実施した。

## ◆課題と対応に対する検討-3

平成30年5月31日の委員会では、課題と対応-主に短期の具体的な取り組みについて、担当課に確認を実施し、併せて委員から意見が出た。

### 【主な意見（順不同）】

- ①転入者へパンフレットを配布する等、アプローチが必要ではないか。
  - ②ホームページ・広報はすぐにやろうと思えばすぐに出来るものとする。
  - ③予算が必要であっても、必要な予算であれば考えないといけない。
  - ④公共交通単独ではなく、別テーマ（例えば、健康）と一体として考えて行く必要ではないか。
  - ⑤京阪バスからの廃止の申し入れから一年の猶予があるものの、時間がないのではないかと。スピーディな対応が必要ではないか。
  - ⑥中長期の課題はあるものの時間的制約がある以上、短期で出来ることがあるのではないかと。
- etc

# ◆交野市のこれまでの施策-①

(参 考)

施 策	交野市バス I Cカードシステム整備事業費補助金
年 度	平成21年度
目 的	国の補助制度を活用し、公共交通利用者の円滑な乗降・乗り継ぎ等利便性の向上を図るための事業を行う路線バス事業者に対し、国、府及び営業区域に関係する市と共に協調補助を行い、市民の公共交通利用の利便性の向上及び道路交通環境の改善を目的とする。
事業概要	I Cカード (PiTaPa) による運賃決済を行うための車両等の機器整備
予 算	791,000円
決 算	779,000円

## ◆交野市のこれまでの施策-②

(参 考)

施 策	バスロケーションシステム整備補助金
年 度	平成25年度
目 的	国の補助制度を活用し、公共交通利用者の円滑な乗降・乗り継ぎ等利便性の向上を図るための事業を行う路線バス事業者に対し、国や営業区域に関係する市と共に協調補助を行い、身近な公共交通機関としてのバスの重要性を高め、利用者の利便性向上を図ることを目的とする。
事業概要	広域的な公共交通ネットワークを充実させるため、路線バス事業者に対し、GPS等を用いてバス等の位置情報を収集し、携帯電話、パソコン、停留所表示端末等にバスの接近や到着と即時刻をリアルタイムで情報提供するシステムの導入。
予 算	1, 141, 000円
決 算	1, 141, 000円

## ◆交野市のこれまでの施策-③

(参 考)

施 策	交野市バスＩＣポイントサービス導入事業補助金
年 度	平成２８年度
目 的	国の補助制度を活用し、公共交通利用者の円滑な乗降・乗り継ぎ等利便性の向上を図るための事業を行う路線バス事業者に対し、国や営業区域に関係する市と共に協調補助を行い、ＩＣカードの高度化や利便性の向上により、市民の公共交通の利便性に資することを目的とする。
事業概要	既存の全国相互利用対象カードであるＩＣＯＣＡを活用し、事前登録を行った乗客に対し、利用時に利用額の１０％として付与するＩＣポイントサービスを実施するための機器整備。
予 算	４７３，０００円
決 算	３８６，０００円

# ◆意見交換会の実施

日 時：平成30年7月20日 10時から

場 所：市役所本庁3階 第一委員会室

相手方：交野市地域公共交通検討委員会委員

内 容：都市環境福祉常任委員会で調査研究をしている、本市の「公共交通のあり方について」を議題として、交野市地域公共交通検討委員会委員5名との意見交換会を以下のとおり実施した。



- ・都市環境福祉常任委員会の昨年9月以降の取り組み内容を久保田委員長より報告を行った。
- ・検討委員会委員5名に対して、事前質問を行い、意見交換会当日に、それぞれの立場で率直な回答を頂いた。また、それに対して、委員より質疑応答を行った。

# ◆意見交換会の実施-質問-1

意見交換会に係る検討委員会委員に対する、質問は以下のとおりである。

氏名	質問
熊谷 委員長	・ 検討委員会の議論を通じて、本市の公共交通の将来の見通しについて、どのように考えられていますか？
猪井 副委員長	・ 検討委員会の議論を通じて、本市の公共交通の将来の見通しについて、どのように考えられていますか？ ・ 外出支援施策について、自治体がどこまで行うべきものなのか、お考えをご教示ください。
後藤 委員	・ 検討委員会の議論を通じて、本市の公共交通の将来の見通しについて、どのように考えられていますか？ ・ 利用促進策のより効果的な事業施策は、どのようなものがあると考えられていますか？他自治体での事例があれば併せてご教示ください。
埜邊 委員	・ 昼の時間帯（ゆうゆうバスが走っている時間帯）における南星台及び星田山手のタクシーの個別利用状況が他の地域と比べてどのよう（多い、少ない）に考えられていますか？また、福祉施策に対するタクシーの考え方について、どのように考えられていますか？
乾 委員	・ 大阪府の事業であるが、免許返納者に対する特典（割引等）のサポート企業が市域にないと聞き及んでいる。産業振興の観点から見て、今まで議論がされていたのかどうかご教示ください。されている場合は、どのような議論をされているのか併せてご教示ください。

## ◆意見交換会の実施-質問-2

質問に対する、回答を以下のとおり概要を記載する。

### 質 問

検討委員会の議論を通じて、本市の公共交通の将来の見通しについて、どのように考えられていますか？

### 回 答

熊 谷  
委員長

少子高齢化により、ゆうゆうバスに乗る権利のある方が非常に多くなり、その維持費も長期で考えると見逃せない。そのため、外出支援の形を考えていく上で、転機ではないかと考える。但し、外出支援が必要な方は、様々なタイプの方がいるため、全体を網羅するようなものより、個々のスタイルにあった外出支援をしていくのも一つの方向性と考えている。また、交野市には、核となる鉄道駅が配置されているのは非常に恵まれているので、バス路線等の外出支援の公共交通を充実させていくことでこれからの高齢化社会に対応できるのではないかと考えている。全体としての明るい見通しはある。

# ◆意見交換会の実施-質問-3

質問に対する、回答を以下のとおり概要を記載する。

## 質問

検討委員会の議論を通じて、本市の公共交通の将来の見通しについて、どのように考えられていますか？

## 回答

猪井  
副委員長

戦略と戦術が必要であると思っている。今回京阪バスが撤退されたことに対して、何らかの対応が必要（応急処置）であり、事業として変更する点は変更していくことが必要と考える。

また、バスは利益が出るものではなくなっている。それを考えると交野市では厳しくなっている現状である。そこで誰が費用を負担するのか、それは出方（運賃、又は税金）は色々あったとしても市民である。そして、よくわからない中で、無料で動いている（ゆうゆうバス）と言うのではなく、本当にこれにお金を出していくのかと議論した上で、必要なものだからこそ出していくと言う議論をしていかないといけないと思っている。市民にもどのような負担を現実には市民自身が負っているのかを知って頂く必要があると思っている。

# ◆意見交換会の実施-質問-4

質問に対する、回答を以下のとおり概要を記載する。

## 質 問

検討委員会の議論を通じて、本市の公共交通の将来の見通しについて、どのように考えられていますか？

## 回 答

後委  
藤員

少子高齢化、労働人口の減少によりバス利用者が少なくなっている。そのため、収入は減り、必要な経費以外は切り詰め、また、人件費まで削減することで、人材が確保出来ず、運行の撤退や減便ということになってしまう。

そこで、民間バスが撤退した所や交通空白地域には、公的資金を投入し、コミュニティバス等で補完をしていく。人間の心理上、有料バスより無料バスを利用される。あくまで民間バスにやってもらうところは民間バにやってもらい、競合は避ける必要がある。

そして、いくら民間バスに任せても、民間バスの方向性と違う施策を実施する自治体ほど先に撤退されてしまうことになる。

# ◆意見交換会の実施-質問-5

質問に対する、回答を以下のとおり概要を記載する。

## 質問

昼の時間帯（ゆうゆうバスが走っている時間帯）における南星台及び 星田山手のタクシーの個別利用状況が他の地域と比べてどのよう（多い、少ない）に考えられていますか？また、福祉施策に対するタクシーの考え方について、どのように考えられていますか？

## 回答

埜 邊  
委 員

山間地における日中のタクシー利用は、平日（月から金）10時から2時ぐらいに利用頂いている。目的地は、病院と駅への利用が割と多い。但し、平成13年以降からの利用数は減少しており、理由は、人口減や自家用車での移動される方が多くなったものと考えられる。

福祉に関しては、福祉タクシーと福祉兼用車に2台を導入している。福祉兼用車は、通常時は一般のタクシーとして、車いすの方が利用する場合、座席を変更してすぐに乗れるようにしている。今後、福祉兼用車を追加導入する予定であるが、車両本体が非常に高額である。現在、国交省から補助金が出ているが、府及び市からも補助金があれば、もっと倍増し、いろんな方が乗れるようにしていきたいと考えている。

# ◆意見交換会の実施-質問-6

質問に対する、回答を以下のとおり概要を記載する。

## 質問

大阪府の事業であるが、免許返納者に対する特典（割引等）のサポート企業が市域にないと聞き及んでいる。産業振興の観点から見て、今まで議論がされていたのかどうかご教示ください。されている場合は、どのような議論がされているのか併せてご教示ください。

## 回答

乾  
委員

質問を頂くまで、この制度があることを認識していなかった。大阪府に問い合わせところ、平成24年からの制度であること判明したものの、普及の仕方やPRはどのように行ったのかはならず、任意で募集しているとの回答であった。  
過去に遡っても、交野市、又は商工会議所に対して、依頼を受けた記憶はないが、経済団体としても協力する必要があるのではと認識している。しかし、公的援助がなく企業側にメリットがないため、あくまで協力と言う形にならざるを得ない。

## ◆意見交換会の実施-質問-7

質問に対する、回答を以下のとおり概要を記載する。

### 質 問

外出支援施策について、自治体がどこまで行うべきものなのか、お考えをご教示ください。

### 回 答

猪 井  
副委員長

国が求めているのは、義務教育に対する移動手段の保証である。それ以外は、個々の自治体の状況に照らしてとなるが、一般的には、買い物、通院ぐらいはできること。  
また、交野市の性格上、市外に向かう住宅地と考えると通勤ができる環境が必要ではないかと考える。住宅地の価値の低下を招くこととなる。

## ◆意見交換会の実施-質問-8

質問に対する、回答を以下のとおり概要を記載する。

### 質問

利用促進策のより効果的な事業施策は、どのようなものがあると考えられていますか？他自治体での事例があれば併せてご教示ください。

### 回答

後委  
藤員

利用促進策と言っても、コミュニティバスと民間バスに対してで、それぞれ異なると考えられる。  
コミュニティバスの場合、やはり地域の方に関わってもらい、実際の経路、停留所、何便運行するのか、経費負担を自らで決めていく所は、熱く活動されている。  
民間バスの場合、効果がすぐに見えないかもしれないが、例えば、小学生を対象に民間バス事業者と連携し、バスの乗り方教室を行い、バスになじんでもらう取り組みを行う。  
他自治体としては、京都府宇治市では一旦民間バスが撤退したものの、1自治会の取り組み（自分たちの自治会費を使ってでも必要、この地域にはバスが必要等）から、民間バスがもう一度走らせることとなった。

## ◆ま と め

都市環境福祉常任委員会では、平成29年9月より「公共交通のあり方について」を重点テーマとし、調査研究を行ってきた。

限られた時間であったが、以下のとおり、取り組みを行った。

- 担当課からの現状説明
- 学識経験者による研修（大阪大学猪井助教）
- ゆうゆうバスの試乗
- 先進市視察（福岡県嘉麻市、須恵町）
- 委員間討議（現状と将来の課題と対応について）
- 意見交換会（交野市地域公共交通検討委員会委員）

⇒ 委員会として、次項以降のとおり市へ提言する。

# ～ 委員会から市への提言 ～

## 短期

- ①京阪バスと話し合いをする場を設け、しっかり議論すること。
- ②バスの利用促進に向けて、本市の広報誌及びホームページを活用し、バスを含む市内の公共交通情報の発信に努めること。
- ③各種市イベントとの連携や、又は京阪バスとの連携により、地域住民に対して、バスの乗り方サポートを行い、バスの重要性を再発見出来るような取り組みに努めること。

# ～ 委員会から市への提言 ～

## 中長期

- ①京阪バスから一部路線撤退の申し入れがあったとはいえ、市内には地域内交通を提供する京阪バス路線が存在している。民間に任せられる場所は、民間に任せ、その他の部分は、行政が補完出来る様な仕組み(すみ分け)を検討すること。
- ②今後、超高齢化により、ゆうゆうバスに乗車される方が非常に多くなることが予測されるため、新たな外出支援の形を含めて、市内全体の公共交通を検討すること。

# ～ 委員会から市への提言 ～

## 全 体

京阪バスの一部路線撤退までに時間的猶予がない。また、今後、同様に路線撤退を申し入れされる地域も考えられる。

「市民の移動手段を確保し、交野市の公共交通体系を維持する」ため、市にはこれまで以上のスピーディな対応を求める。

# 都市環境福祉常任委員会委員

委員	長	久保田	哲
副委員	長	岡田	伴昌
委員		藤田	茉里
委員		中上	さち子
委員		新	雅人
委員		片岡	弘子
委員		野口	陽輔

※委員については、議席順に記載